

授業実践事例

小学校 第6学年 単元名 Summer Vacation (全7時間)

単元を通して身に付けさせたい資質・能力 質問をしたり質問に答えたりする。

単元ゴールの言語活動 友達の夏休みの過ごし方について知るために、インタビューをしよう。

1 単元の目標

お互いのことをもっと知るために、夏休みの思い出や感想などについて、質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる。また、夏休みの思い出について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて書くことができる。

2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと「やり取り」	<知識> “How was your summer vacation?”や“I went to~/enjoyed~/ate~. It was~.”とその関連語句などについて、理解している。 <技能> 夏休みの思い出や感想などについて、“I went to~/enjoyed~/ate~/It was~”やその関連語句などを用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。	お互いのことをもっと知るために、夏休みの思い出や感想などについて、質問をしたり質問に答えたりして、伝え合っている。	お互いのことをもっと知るために、夏休みの思い出や感想などについて、質問をしたり質問に答えたりして、伝え合おうとしている。
書くこと	<知識> “How was your summer vacation?”や“I went to~/enjoyed~/ate~. It was~.”とその関連語句などについて、理解している。 <技能> 夏休みの思い出や感想などを紹介することについて、書く技能を身に付けている。	お互いのことをもっと知るために、夏休みの思い出や感想などについて、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて書いている。	お互いのことをもっと知るために、夏休みの思い出や感想などについて、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて書こうとしている。

単元の目標や評価規準の設定については、国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を御参照ください。



3 単元の指導と評価の計画(全7時間)

時	目標(◆)活動内容(○)	知	思	主	評価(・) (評価方法)
1	◆夏休みにしたことを伝える表現について理解することができる。 ○Alphabet time(帯活動) ○Small Talk(夏と言えば) ○先生たちの夏の思い出を聞く。 ○Plan and Reflection シートで、単元ゴールへの見通しをもつ。 ○夏にしたことを伝える表現を知り、聞いたり、言ったりする。				・本時では、「記録に残す評価」は行わないが、目標に向けて指導を行う。 〔指導に生かす評価〕
2	◆夏休みの思い出を紹介する表現に慣れ親しむ。 ○Alphabet time(帯活動) ○Small Talk(昨日食べたもの) ○【Let's Sing】We love summer vacation. ○キーワードゲーム (夏の思い出の関連語句)				・本時では、「記録に残す評価」は行わないが、目標に向けて指導を行う。 〔指導に生かす評価〕

①単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にし、児童に単元の見通しをもたせる場面を設定します。
p.6

②単元ゴールの言語活動に向かって、言語活動と指導を繰り返していきます。「塗り型」の指導展開を踏まえ、5時間目の単元ゴールの言語活動(青の枠囲み)に向けて、ステップアップの言語活動(緑の枠囲み)を繰り返して設定しています。 ☞「単元デザイン FIRST STEP」	3 ◆夏休みに楽しんだことの表現を用いて、夏休みの思い出を尋ねたり、答えたりすることができる。 ○Alphabet time(帯活動) ○Small Talk(昨日の出来事) ○【Let's Chant】Did you enjoy camping? ○【Let's Listen】登場人物が夏休みにしたことを聞く。 ○Let's Talk 友達の夏休みの思い出(楽しんだこと、感想)を知るためのやり取りを行う。 ○【Let's Read and Write】I enjoyed～.の表現を用いて書く。			・本時では、「記録に残す評価」は行わないが、目標に向けて指導を行う。 ☞「指導に生かす評価」	③適宜児童の学習状況を把握する場面を設定します。当該単元では、単元後半の第4時、第5時、第6時に、「話すこと[やり取り]」の領域において「記録に残す評価」を行います。また、第7時に、「書くこと」の領域において「記録に残す評価」を行います。それらに加えて、「指導に生かす評価」を毎時間行い、目標に向けて指導を行います。 ☞「学習評価 FIRST STEP」
④単元末に単元ゴールの言語活動を設定します。以下の4つの視点を踏まえて、設定することが大切です。 I 伝え合う目的や必然性 II 相手意識 III「本物」のコミュニケーションである。 IV 伝え合うことの喜びや意義 ☞「単元デザイン FIRST STEP」	4 ◆夏休みに行った場所やしたこと、食べたものの表現を用いて、夏休みの思い出を尋ねたり、答えたりすることができる。 ○Alphabet time(帯活動) ○Small Talk(夏休みの思い出・楽しんだこと) ○【Let's Chant】Did you enjoy camping? ○ポインティングゲーム ○【Let's Listen】登場人物が夏休みにしたことを聞く。 ○Let's Talk 友達の夏休みの思い出(行った場所、したこと、食べたもの)を知るためのやり取りを行う。 ○【Let's Read and Write】I went to～.の表現を用いて書く。	や		・夏休みに行った場所、したこと、食べたものとその感想を伝え合っている。 (行動観察・振り返りシート) ☞「記録に残す評価」	
⑤単元の学習を振り返る時間を設定し、児童の学習改善や教師の指導改善につなげます。 ☞p.6	5 本時 ◆友達の夏休みの過ごし方について、“How was your summer vacation?”の表現を用いて尋ねることができる。 夏休みの過ごし方を、“I went to~/enjoyed~/ate~/It was～”及びその関連語句などを用いて、答えることができる。 ○Alphabet time(帯活動) ○【Let's Sing】We love summer vacation. ○Let's Talk 友達の夏休みの思い出を知るためのやり取りを行う。 6 ○【Let's Read and Write】It was～.の表現を用いて書く。	や	や	やり取りの評価基準(ループリック)参照 ☞p.4 (行動観察・振り返りシート) ☞「記録に残す評価」	
	7 ◆例文を参考に、やり取りした内容にあった語句や表現を用いて、夏休みの思い出絵日記を書くことができる。 ○夏休みの思い出絵日記を書こう。 やり取りした内容を基に、夏休みの思い出絵日記を作成する。例文を参考に書き写す。 ○Plan and Reflection シートで、単元の学習を振り返る。	書		・やり取りした内容を、例文を参考に書き写すことができる。 (思い出絵日記) ☞「記録に残す評価」	

※「や」は「話すこと[やり取り]」、「書」は「書くこと」の領域を示しています。

単元の指導と評価の計画の立て方については、国立教育政策研究所「『[指導と評価の一体化](#)』のための学習評価に関する参考資料」や佐賀県教育センターHP「[単元デザイン FIRST STEP](#)」、「[学習評価 FIRST STEP](#)」を御参照ください。



4 本時の目標

友達の夏休みの過ごし方について、“How was your summer vacation?”の表現を用いて尋ねることができる。

夏休みの過ごし方を、“I went to~/enjoyed~/ate~. It was~”やその関連語句などを用いて、答えることができる。

5 本時の展開(5/8) 『授業づくりのポイントチェックシート』

	児童の活動	教師の働き掛け(・) 評価(◎)	ポイント
導入	1 Alphabet Time (帯活動)	・ 単元終末の書く活動につなげるために、夏に関する英単語を取り上げる。 ・ 英語のリズムや強弱などを意識させながら歌うよう声掛けをする。 ・ 前時までの振り返りシートの中から、本時のめあてにつながるような児童の記述を紹介する。 ・ 児童が本時の見通しをもつことができるよう、本時のめあてと流れを確認する。	【児童の活動2】 ・ 単元目標や本時のめあてに応じた歌やチャントなどを取り入れ、表現に慣れ親しませます。
	2 Let's Sing		
	3 前時までの活動を振り返り、本時のめあてと流れを確認する。		【児童の活動3】 ・ 児童と本時のめあてを共有することで、児童が主体的に学ぶことにつながっていきます。
	友達の夏休みの過ごし方を知るために、インタビューをしよう。		
展開	4 Small Talk を聞いて反応したり答えたりする。 (教師の夏休みの過ごし方についての話の例) I went to the mountains. I enjoyed camping. It was exciting. I ate curry and rice. Do you like curry and rice? Curry and rice made by myself was delicious.	・ 本時のやり取りにつなげるために、モデルとなる教師の Small Talk を基に、児童に質問をしたり、反応を促したりする。	【児童の活動5】 ・ やり取りの評価基準(ルーブリック)を児童と共有することで、児童自身がめあてを決め、主体的に学ぶことにつながります。 ・ 言語活動の途中に、やり取りの評価基準(ルーブリック)等を基に、中間指導を複数回行うことで、言語活動における児童のやり取り(言語活動)の質を高めていきます。 ・ 児童全員が「おおむね満足できる」状況(b)になるように【指導に生かす評価】を行います。「努力を要する」状況(c)と判断した児童に対しては、適切なフィードバックを行います。
	5 友達の夏休みの過ごし方を知るためにやり取りを行う。 ※やり取り(言語活動)と中間指導を繰り返し行います。本時では、やり取りを3回行いました。  	・ よりよいやり取りの具体を共有するために、やり取りの評価基準(ルーブリック)を示す。 ・ 主体的に言語活動に取り組むことができるよう、児童が自分のめあてを決めた上で、活動を始める。 (予想される児童のやり取りの例) A: Hello! How was your summer vacation? B: It was nice. A: Why? B: I went to the river. A: Oh, nice! What did you do? B: I enjoyed camping. I ate watermelon. A: It was good. A: That's great! ・ やり取りの質を高めることができるよう、中間指導では、児童自ら課題を見付けたり、友達のよい例からその解決策を見いだしたりすることができるよう支援する。 ・ 中間指導後に言語活動を再開し、中間指導で取り上げたことを生かしてやり取りを行うよう声掛けをする。 ⇒ 工夫1: 中間指導の例(p.5) ◎1人1台端末を用いて、やり取りの様子を相互に撮影したものを基に、記録に残す評価を行う。	

◎やり取りの評価基準(ルーブリック)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	“How was your summer vacation?”の表現や“I went to~/enjoyed~/ate~. It was~.”などの表現を理解し、それらを正しく用いて、言いよどむことなく、質問をしたり答えたりしている。	お互いのことをもっと知るという目的に応じて、夏休みの思い出について、相手によく分かるように情報を加えたり、相手に質問したり答えたり、感想を言ったりしながら、互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。	お互いのことをもっと知るという目的に応じて、夏休みの思い出について、相手によく分かるように情報を加えたり、相手に質問したり答えたり、感想を言ったりしながら、互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。
b	時折言いよどんだり、一部誤りが見られたりするが、“How was your summer vacation?”の表現を用いて質問をしたり、“I went to~/enjoyed~/ate~. It was~.”などの表現を用いて答えたりしている。	お互いのことをもっと知るという目的に応じて、夏休みの思い出について、質問したり質問に答えたりしながら、互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。	お互いのことをもっと知るという目的に応じて、夏休みの思い出について、質問したり質問に答えたりしながら、互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

まとめ

6 本時の学習内容のまとめを行う。

7 振り返りシートに記入する。

- ・児童の発言を取り上げながら、本時のめあてに対応した学習内容のまとめを行う。
- ・やり取りの評価基準(ルーブリック)に沿って、できるようになったことや次への課題について振り返りを書くよう促す。

⇒

工夫2:振り返りシートの例(p.6-7)

【児童の活動6、7】

学習したことを振り返ったり、次の学習の見通しを立てたりすることで、自らの学習を調整しながら主体的に学ぶことにつながっていきます。

6 本時における指導と評価の工夫

工夫1:中間指導の例

本時の児童の活動4「友達の夏休みの過ごし方を知るためにやり取りを行う」の具体を示します。言語活動の途中に、中間指導を複数回行うことで、児童のやり取り(言語活動)の質を高めていきます。

【児童のやり取りの変容】

【言語活動①】

A:Hello! How was your summer vacation?
B: It was nice.
A:Why?
B: I went to the sea.
A:What did you do ?
B:I enjoyed swimming. It was good.

中間指導①

【言語活動②】

A:Hello! How was your summer vacation?
B:It was nice.
A:Why?
B I went to the sea.
A:What did you do ?
B:I enjoyed swimming.
A:Oh,nice! What did you eat?
B:I ate ice cream. It was delicious.
A:That's great!

中間指導②

【言語活動③】

A:Hello! How was your summer vacation?
B: It was exciting. I went to the sea.
A:Oh, nice! What did you do?
B:I enjoyed swimming. And I ate ice cream.
Do you like ice cream?
A:Yes,I do.
B:What flavor do you like?
A:I like chocolate.
B:Oh! Me too.

【中間指導①での教師の働き掛け】

- ・活動の手順や方法など、活動をしていて分からなかったことを尋ねます。
- ・言語活動で使用する英語表現等の確認をします。
- ・ジェスチャーやリアクションなどができている児童を取り上げ、称賛します。

☆「努力を要する」状況(c)から「おおむね満足できる」状況(b)になるような働き掛けを行うことが大切です。



やり取りをしていて分からなかったこと、困ったことはありますか？

何を食べたかという聞き方が分からなかった…



みなさん、どう言ったらいいと思いますか？

「何」を聞くときには、「What～」を使ったらいいんじゃないかな？



そうですね。「What did you eat?」と言うといいですよ。少し練習してみましょう！

～(言語活動で使用する言語材料の練習)～



〇〇さんは、友達の話を聞いて「Nice.」「Me,too.」など言っていました。リアクションができていていいですね。友達のよいところは、ぜひまねしてみましょう。



【中間指導②での教師の働き掛け】

- ・中間指導①で伝えたことができるようになってきたことを称賛します。
- ・相手意識をもってやり取りすることを確認したり、更に会話を続けるための表現を共有したりします。

☆中間指導①の働き掛けに加えて、「十分満足できる」状況(a)の児童をよい例として示すなど学級全体で共有し、今後の活動につなげます。



△△さんは、友達が「I went to the park.」といったのに対して、「What did you do?」と尋ねていましたよ。さっき練習したことを早速使えていますね。



「Oh,nice!」や「Really?」など、友達の言ったことに対してリアクションする声がたくさん聞こえていましたね。



やり取りをしながら、もっと友達のことを知るためにはどうしたらいいですか？

「Do you like～?」と質問をしたらいいんじゃないかな。



そうですね。他にもこの単元の1時目でしたように、「What～do you like?」も使えそうですね。



中間指導においては、児童が自身のやり取りを振り返り、課題を見付けたり、友達のよい例から解決策や新たな目標を見いだしたりできるように支援していくことが大切です。その際、児童の学習状況を適切に見取り、目標の達成に向けて、即時的な指導を行います。児童の実態を踏まえ、事前にどのような手立てを講じるか考えておくといでしょう。

ポイント



工夫2:振り返りシートの例

振り返りシートは、単元や内容のまとめ、あるいは1時間ごとに、児童自身が学習状況を振り返るための自己評価用のシートです。振り返りシートの活用には、以下のような利点があります。

○ 児童が自らの学習を振り返る機会をつくる。

児童が自らの学習を振り返ることで、「何ができるようになったか」「何を身に付けたのか」など自分の頑張りや成長に気付くことができます。また、「今後できるようになりたいこと」や「そのための方策」などを考え、自らの学習を調整したりすることができるようになります。さらに、前向きに学習に取り組もうとする態度を育てることにもつながります。

○ 教師が、授業中の発言や行動には表れにくい児童の頑張りや学習の調整などを把握できる。

授業中の行動観察だけでは見取ることができない児童の頑張りや学習の調整などを、振り返りシートの記述から把握し、児童の学習改善や教師の指導改善の手掛かりを得ることができます。

○ 児童が他者と学びを共有する場をつくる。

児童が振り返りシートに記入したことを授業の導入やまとめで紹介する場面を設定することで、児童は学習改善につながる他者の考え方や取り組み方を知ることができ、児童にとって自らの学びを深める貴重な機会になります。

直山 木綿子 監修「小学校外国語教育の指導と評価」p.106を基に作成

本単元で使用した【単元全体の振り返りシート】(資料1)を、以下に示します。

○ 単元の導入段階(1時間目)で記入します。

児童が学習の見通しを立て、主体的に単元の学習活動に取り組むことができるよう、単元ゴールとゴールまでの流れを示しています。児童自身が単元の目標を決めて、単元ゴールに向けて、頑張りたいことなどを書く欄を設けています。

○ 単元のまとめの段階(7時間目)で記入します。

児童が自らの学習を調整できるようにするために、単元の学習を振り返ります。単元を通してできるようになったことを「できた!」「だいたいできた!」「もう少し!」の3段階で自己評価できるようにしています。また、言語活動において気を付けたことや工夫したこと、今後できるようになりたいことなどを自由に書く欄を設けています。

【資料1 単元全体の振り返りシート】

【1時間ごとの振り返りシート】(資料2)と【児童の記入例】(資料3)を、それぞれ以下に示します。

[Unit 4 Reflection①] Name _____

先生たちの夏休みの思い出を語ろう！

①ス 夏休みに行った場所としたこと、食べたものその感想を紹介しよう！

②ス モーニングの気持ちや寝たことなど(得意な場面)

③ス 夏休みの思い出を紹介するときや聞くときに、工夫したことを書こう！

④ス 友だちの夏休みの過ごし方を知るために、インタビューをしよう！

⑤ス ①【話す側】基本的表現を使って、思い出を紹介することができましたか？

⑥ス ②【話す側】相手の質問に対して、何とか英語で答えようとしたか？

⑦ス ③【聞く側】相手の答えに対して、さらに質問をしたり、コメントをしたりできましたか？

⑧ス ④友だちの夏休みの過ごし方を知るためのインタビューで、工夫したことを書こう！

⑨ス 思い出日記を書こう！

⑩ス ①【話す側】基本的表現を使って、思い出を紹介することができましたか？

⑪ス ②【話す側】相手の質問に対して、何とか英語で答えようとしたか？

⑫ス ③【聞く側】相手の答えに対して、さらに質問をしたり、コメントをしたりできましたか？

⑬ス ④友だちの夏休みの過ごし方を知るためのインタビューで、工夫したことを書こう！

⑭ス 思い出日記を書こう！

⑮ス ①【話す側】基本的表現を使って、思い出を紹介することができましたか？

⑯ス ②【話す側】相手の質問に対して、何とか英語で答えようとしたか？

⑰ス ③【聞く側】相手の答えに対して、さらに質問をしたり、コメントをしたりできましたか？

⑱ス ④友だちの夏休みの過ごし方を知るためのインタビューで、工夫したことを書こう！

⑲ス 思い出日記を書こう！

選択式

見取りたい観点に応じた振り返りの視点を示し、「よくできた」「できた」「もう少し」の3段階で児童が自己評価できるようにしています。

友だちの夏休みの過ごし方を知るために、インタビューをしよう！

①【話す側】基本的表現を使って、思い出を紹介することができましたか？

②【話す側】相手の質問に対して、何とか英語で答えようとしたか？

③【聞く側】相手の答えに対して、さらに質問をしたり、コメントをしたりできましたか？

④友だちの夏休みの過ごし方を知るためのインタビューで、工夫したことを書こう！

⑤ 気付いたことや工夫したこと

次、がんばりたいこと

記述式

言語活動において「気付いたことや工夫したこと」、「次、がんばりたいこと」を自由に書く欄を設けています。

【資料2 1時間ごとの振り返りシート】

児童A

友だちの夏休みの過ごし方を知るために、インタビューをしよう！

①【話す側】基本的表現を使って、思い出を紹介することができましたか？

②【話す側】相手の質問に対して、何とか英語で答えようとしたか？

③【聞く側】相手の答えに対して、さらに質問をしたり、コメントをしたりできましたか？

④友だちの夏休みの過ごし方を知るためのインタビューで、工夫したことを書こう！

気付いたことや工夫したこと

OOちゃんがつけ加えて「イツデリヤス」と言っていたので、思ったかくわしく知ることができた。

次、がんばりたいこと

OOちゃんのように「イツ～」などのつけ加えができるようにしたい。友達のよいところを真似てやってみよう。

児童Aは、第5時に友達のよい点に気付き、「つけ加えができるになりたい」と記述していました。第6時では、友達のよい点のまねをすることで、詳しく説明する言葉を付け加えてやり取りをする姿が見られました。

児童B

友だちの夏休みの過ごし方を知るために、インタビューをしよう！

①【話す側】基本的表現を使って、思い出を紹介することができましたか？

②【話す側】相手の質問に対して、何とか英語で答えようとしたか？

③【聞く側】相手の答えに対して、さらに質問をしたり、コメントをしたりできましたか？

④友だちの夏休みの過ごし方を知るためのインタビューで、工夫したことを書こう！

気付いたことや工夫したこと

月曜日と話して、でも最初の質問の仕方と「おもしろい」と言われて、少し分かった。

次、がんばりたいこと

次の時間の始めに練習してみよう。

みんなが自分から言ってくれたので、自分もできるようにしたい。

友だちの夏休みの過ごし方を知るために、インタビューをしよう！

児童Bは、第5時で質問の仕方が分からないという記述をしていました。第6時の導入で、表現の確認を全体ですることと、言語活動の中で教師と児童Bでやり取りをし、助言や支援を行いました。そのことで、児童Bは学習改善が図られ、言いよどむことなくやり取りを行う姿が見られました。

【資料3 児童の記入例】

児童の学習意欲の向上につながるよう、児童の頑張りや学習の調整などが表れた記述には、赤線を引いたりコメントを書き入れたりしましょう。また、授業の導入やまとめの段階において、そのような記述を学級全体で共有することで、学びを深めることに繋がるといいます。



7 授業者の声

今回、単元ゴールの言語活動を「友達の夏休みの過ごし方を知るために、インタビューをしよう」と設定し、第6学年で授業実践を行いました。単元ゴールの言語活動を設定する際は、「I **伝え合う目的や必然性** II **相手意識** III **『本物』のコミュニケーション** IV **伝え合うことの喜びや意義**」の4つの視点を踏まえたことで、児童が意欲的に言語活動に取り組んでいました。

単元をデザインする際は、「**漆塗り型**」の**指導展開**を踏まえ、単元ゴールの言語活動に向けて、“What did you eat yesterday?” “What did you ~ this summer?”などの言語材料を使用した Small Talk やステップアップの言語活動を毎時間継続して行いました。単元を通して、言語活動と指導を繰り返し行ったことで、単元ゴールの言語活動では、本単元で学習したことを用いてスムーズなやり取りができました。

本時の**中間指導**では、言語活動において児童が分からないことや困ったことなどの課題を学級全体で共有し、友達のよい例からその解決策を見いだすことができるよう支援しました。例えば、既習表現を使用して粘り強く会話を続けようとしている児童や、友達の答えに“Nice!” “Me too.”などのリアクションを取っている児童を紹介することで、よりよいやり取り（言語活動）へつなげることができました。また、**中間指導を複数回行った**ことで、やり取り（言語活動）の質を高めることができたと思います。

今回の実践を通して、単元を通して身に付けさせたい資質・能力を育成するためには、授業の中で児童の様子をしっかりと見取り、繰り返し継続して指導していくことが大切だと感じました。